



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

## 前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10

TEL : 027-235-8011 FAX : 027-235-8512

URL : <http://www.maebashibungakukan.jp/>

E-mail : [bungakukan@city.maebashi.gunma.jp](mailto:bungakukan@city.maebashi.gunma.jp)

### ACCESS

**電車**で JR前橋駅から徒歩約20分  
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

**お車**で 関越自動車道 前橋ICから車で約15分  
※市営パーク城東のご利用に際しては、駐車券に割引処理  
いたします。



# 心の郷愁を撮

前橋文学館企画展・萩原朔太郎生誕130年記念



1914

2012

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

## 前橋文学館

2016年9月3日(土)～10月30日(日)

[開館時間] 9時～17時

[休館日] 水曜H

[会場] 3階オープンギャラリー

[観覧料] 無料(特別企画展・常設展示をご覧になる場合は観覧料が必要です)

協力：石原康臣氏・太田写真館



—100年間の定点観測—  
朔太郎・朔美写真展

# 心の郷愁を撮りたい

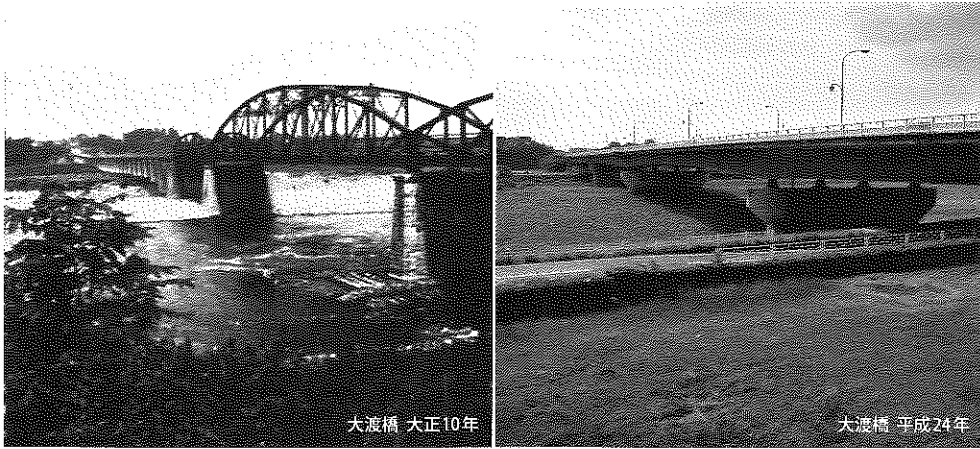
—100年間の定点観測— 朔太郎・朔美写真展

元来、僕が写真機を持つてゐるのは、記録写真のメモリーを作る為でもなく、また所謂芸術写真を写す為でもない。一言にして尽くせば、僕はその器械の光学的な作用をかりて、自然の風物の中に反映されてる、自分の心の郷愁が写したいのだ。僕の心の中には、昔から一種の郷愁が巣を食つてる。

(萩原朔太郎「僕の写真機」より)

写真には、定点観測写真という手法がある。時間のいたづらをむしる積極的に楽しむ写真表現だ。手法は簡単。同じ場所を、同じアングルで、まるで観測するように撮影し続ける。そうすると、「時も画家」なので、風景が徐々に変容していく。その変わりゆく様を写真に定着させ、新旧の変化を楽しむのである。

(萩原朔美「定点観測写真——朔太郎写真との差異を探す試み——」より)



大渡橋 大正10年

大渡橋 平成24年



秦町通り 昭和4年ごろ

秦町通り・中我アークード街 平成24年

## 関連イベント TALK & LIVE

第2回 前橋まちなか音楽祭参加

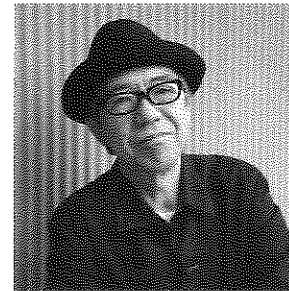
トーク&ライブ

### 「朔太郎さん、こんにちは！」 あがた森魚×萩原朔美

日時：2016年9月4日(日) 14時開演(13時30分開場)

会場：前橋文学館3階ホール 定員：100人(申込先着順) 入場無料

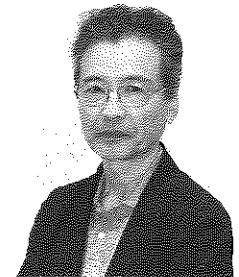
8月21日(日) 9:00から電話受付



あがた森魚

Morio AGATA

1948年北海道生まれ。1972年、デビュー曲「赤色エレジー」の大ヒットで一躍時代の寵児に。20世紀の大衆文化を彷彿とさせる、幻想的でファンタジーに満ちた世界を、音楽にとどまらず、映画や文学作品においても構築し続ける。2014年11月『浦島64』以降、2015年7月『浦島65 BC』、同年11月『浦島65 XX』と連続リリース。現在も精力的に全国でライブを展開。劇場公開作品3本の監督を務め、また俳優として数多くのテレビ、映画に出演。2007年からは自身の「月間日記映画」を東京・渋谷UPLINK FACTORY他、全国で上映している。



萩原朔美

Sakumi HAGIWARA

1946年11月14日東京生まれ。映像作家、エッセイスト。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1969年、寺山修司主宰の演劇実験室「天井桟敷」の立ち上げに参加、演出家として活躍。1975年、月刊誌「ビックリハウス」をバルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に「演劇実験室・天井桟敷」の人々(2000年)『毎日が冒険』(2002年)『死んだら何を書いてもいいわ』(2008年)『劇的な人生こそ真実』(2010年)他多数。多摩美術大学教授。2016年4月より前橋文学館館長。